



## INDEX

### 1 2016年度用FD推進センターからの発刊物のご紹介

FD推進センターで2016年度にむけて作成した発刊物をご紹介します。

### 2 2015年度学生FDスタッフの思いを聴く

教員・職員・学生の三者で作られています。学生の中でも、日常からその一躍を担っている「学生FDスタッフ」の今の思いを聴いてみました。

## 1 2016年度用FD推進センターからの発刊物のご紹介

FD推進センターでは、新年度にむけて以下の発刊物を作成しました。是非一読いただき、授業などにご活用いただけますと幸いです。また、冊子は、ご要望に応じて学内メール便等で必要部数をお送りすることも可能ですので、どうぞお申し付けください(3月末納品予定)。

**紙** 紙媒体でお渡し可能です。 **Web** <http://www.hoseikyoku.jp/fd/> からダウンロード可能です。

### ①学習支援ハンドブック

**紙** **Web**

新入生を対象として作成している冊子です。法政大学の歴史や学習に必要な情報を得るためのガイド、ノートの取り方、レポート作成方法など、初年次教育の教科書としてもご利用いただけます。FD推進センターのホームページからPDF版のダウンロードも可能ですので、必要ページだけを利用いただけます。



### ②T・Aハンドブック

**紙**



T・Aを対象に作成している冊子です。T・A制度の目的や心得、役割等をT・A自身に自覚させるとともに、授業への取り組み方や学生へのはたらきかけ方等のヒントを掲載し、T・A業務への理解およびT・A自身の能力向上に役立つ冊子として作成しました。また、教員とT・Aの連絡ツールとしても使えるメモ欄もあります。担当T・Aに配付いただき、お役立てください(各学部にも予め送付しています。)

### ③FD学生の声コンクール新聞

**紙** **Web**

第8回FD学生の声コンクールの受賞作品を掲載した新聞です。学生の声を通してお届けしています。授業でみる学生とはまた違った一面や、授業内での率直な思いなどが盛り込まれた興味深い作品ばかりですので、是非一読ください。



発行：  
法政大学  
教育開発支援機構  
FD推進センター

ホームページ  
<http://www.hoseikyoku.jp/fd/>

問い合わせ先  
[fd-jimu@hosei.ac.jp](mailto:fd-jimu@hosei.ac.jp)

## 2 2015年度学生FDスタッフの思いを聴く

今年度の教育支援機構主催 学生が選ぶ「ベストティーチャー賞」を企画・実行した学生FDスタッフの2人に、学生FDスタッフ活動について、話を聴いてみましたのでご紹介します。

正課外の活動にも力を入れている学生の姿を、ほんの少しですが、知っていただき、応援していただくと幸いです。

最初は、FDスタッフというよりベストティーチャー賞のイベントスタッフになりたくて2年時の時に入ったという経営学部3年の齊藤茜さん。今では、すっかり学生FDスタッフの顔として活躍しています。

元々、学内の学習ステーション学生スタッフやオープンキャンパススタッフに登録していて、他のスタッフ活動も経験してみたいということから活動の幅を広めようと思って入ったようですが、驚くべきは、そのモチベーションの高さです。上記の活動以外にもサークルにも入っており、さらにはアルバイトもしているという「スーパーウーマン」ぶりに、いつ寝ているのかと余計な心配をしてしまいました。

齊藤さんによると、「FD・授業改善の意味は、いまだによく表現できませんが、授業を行う教員だけでなく、授業を受ける学生も一緒に作っていけるというのが、私の思うFD活動」とのこと。続いて、学生FDスタッフと一般のサークル活動の違いについては、どのように感じているのか質問したところ、「一般のサークルでは学生のみでの運営であり、ノリや勢いがある良い面もあるけれど、方向性の限界が見えている。一方、学生FDスタッフ活動は、教職員と一緒に活動ができ、普段学生だけの活動では知り合うことのできないような目上の方とも関わりを持って、人脈が広がるのが魅力」と話してくれました。このコメントどおり、教職員の話に真剣に耳を傾けて、物怖じすることなく会話を楽しんでいる姿がとても印象的です。

もう一人の学生スタッフ文学部3年の深澤郁乃さんは、いわゆる学問好きなので、授業に関わる内容で、授業の友達以外の人とつながることができることに魅力を感じ、学生FDスタッフに申し込みをしてくれました。

元々は、コミュニケーションが苦手だったという深澤さんは、2年になってそんな自分を変えたくて一念発起。学生だけでなく教職員とも関わりあえることで、学生だけの環境よりも、より「社会」に近い環境で自分をトレーニングできるから、と自ら一歩踏み出した努力家です。

彼女たちにとって、やりがいを感じている学生FD活動ですが、もっぴらの悩みは、スタッフが少ないこと。活動内容がまだ少ない、友達に興味を持ってもらえない、活動場所が固定してない…という「ないない尽くし」に頭を抱えており、さらに4月からは、1人の3年生を除き、全員が4年生となり就職活動に本腰を入れなくてはならない状況に不安が増している様子でした。

齊藤さんへのインタビュー中、何か解決策はないかなと一緒に考えていたところ、彼女からひょいと挙がったのが、認知度をあげるための「学生FDスタッフのブランド化の実施」でした。

学習ステーション学生スタッフも、『Lステスタッフ』と言い換えると、スマートな印象になり、日頃の友達同士の会話の中でもスリリと口から出てくるそうです。学生FDスタッフにも同じように愛称をつければ、イメージアップをはかり認知度があがるのではというアイデアでした。どんな愛称が生まれるか、今後の楽しみです。

深澤さんには、学生FD活動の最終学年となる4年生になったらやり遂げたいことはありますか、と質問してみたところ、「一度、リーダーになって自分で企画を進めてみたい」という回答がすぐに返ってきました。具体的には、どんな内容を考えているのか尋ねてみたところ、「私は、シラバスを熟読しているけれど、他の友達ほとんど読まない。そこで、『シラバスを読む会』というのをやってみたい」と目を輝かせて話してくれました。

文学部に所属していて自分でも小説を書く深澤さんは、人の書いたものには多くの思考時間がその裏に隠れていることも知っている人です。シラバスも、「シラバスは、教員からのメッセージであり、学生との契約書なのですよね。一生懸命書いてくださっているシラバスを読まないなんて、教員の立場になって考えたら辛いことですよ」とサラッと行った姿には驚かされました。さすが、学問好きを自認するだけのことはあります。

それぞれの目標や思いを抱いて参加した学生FDスタッフ活動。さらなる成長の場となるよう、教職員もそっとサポートしていければと思います。

